端

溪

研

志

松 包 Ž. F L だ m 且

流力 榝 權 悉 守我地 也逐 D

E 以贈 予 D 南

有事公 上上大 不 耳人 ふ 之寫 可3 表 颶 予 宋包 百二 屬 作之 多 也 地位 石鎚 海 稱 戸

| 高奚开去 | 一多

鄉善有欽研說出來人之為研語出來人之為研語出 失乎吾友 吳兄 凇 嚴守肇慶政通人和有事 外, 為端研譜而今端志莫之載也豈非文獻 人所重唯端研說其為端研譜者曰葉機又有 縣岸語傳者及端縣爭長洪文安公有歙研 明史者曰米芾唯唐氏著錄於宋志然唐譜 史人 开忘 成な大安公ナ 非文 可得 講學 唐 獻 有無 研譜 继 見 之 曹 儒

固 語をは 以為研田告因不属民而實足以養物當事諸公少休息之以需神靈之 於溪上因得為之序唯端谿 而後 無害也 小小志三卷 能使 淞 嚴固二千石之良也必其使 地不愛寶其以吾言為然否 少是固 民而實足以養民 谿之研材 鼓吹也其 醞釀 近 亦 竭

TOTAL TOTAL

こ、ところ

試 奚 視者二砚每出必與俱 开 得之曹秋岳侍 青花 也 郎 とい 詩云 1 隱隐若 壁 日龍池浴日乾隆两辰 詞 不信窮 而 溪 翰 石甚彩 山細藻 郎家以遺 殺著手 途 知己 馬一日楊子 因名書舎曰硯 廷 在 頂 芳者 鵬 石 熈 眼 四 而 甚

細 土恩傅先澤节 之信 而發 日慶 狀 日水成信 脱水 通馬 墨 見奉 不及龍池或曰 晤不 不祭與其從弟宿長益以他此不及龍地與前人視說手其其人, 也以此或可質太堅者用以不放說, 就以或可質太堅者用以好就就好, 我們, 我時方官 烈 殺廷芳敬書之以鐫于即二現皆即召南敬銘之日旁龍沼揮鳳翰 方官擎 用头易 帙 而 鹅 洞 数 更 諸 子質 為跡 滑 文义既

原缺

端溪研志 天产 江之濱蒼秀鄉羅好此然盡立於大江之濱蒼香秀鄉羅白其可以利器用者僕指而不勝數好此然盡立於大江之濱蒼香秀鄉羅好此然

各灰錢店具君 物者之施 企 者種 取一个 亦岩 子孫

而不敢私一石大子卿雲麗日 夫鹀 取一研而歸史表其清介夫自宋迄今前後取離為圖著說以辨其始終成書三卷題曰既給為圖著說以辨其始終成書三卷題曰敢私一石焉是一役也不妄役一民不虐使敢人然結構方義時頭實像得以展布其設施 響應不數月而就 麗日之治磨丹握 九次者移贈實 管沛 雨 一者真之

松 包 **쌣莫與也** 守端州 | 東思山靈 而以復 物豈無 者又不知更歷幾輩而今之 縋 自 闖 者 包 不敢愛寶以 魏 抡 公 尚茂非月朔舊史杭世時 松城遂即以為硯志序故 而後其一 知更歷 敢愛寶以衣食斯民之意民守土之吏寶是硯而用 治道之大乎不揣 一可7 幾人守端 以信今而傳後者 观志序乾 稱 檮昧 领人口者 州者 用之 Ż 则 舉 舍 事 砚 猫 筀 雖

多开 火榛則人皆見之而余 現松京 產硯有三上 5 永 之 青花之妙 砚 亦 師市肆中其中為蕉白 也不拒 青 燈也中城也水水 在隱現中濡 州也 三青花也蕉 墨一 端溪也飲 桐 也 喜蕉白盖蕉白 不損毫 白 也 辨得之 火捺 也 四 面皆 阳 而 业 也 端 而

花蕉白火茶外或眼若 盘 若能 之區當必有更佳於是者適 マラス 北 此奇 尾紅 ·郡守異公 損走 石怪變不測如斯乃漢曩之所賞若賴翠觀手而潤和之清越盖山 松嚴復以所著硯志三卷質余博 光或雷電是也用之數年能蓄 縣吾固不得 取他人所稱青花諸品較之 **爆出數視示余其狀非** 鸲鹆或放若金絲或點若 而知也然 竊意端 /所賞 皆莫能 州産

今部論又自為說記極詳且悉云親歷水城情人今部論又自為說記極詳且悉云親歷水城情人 岩 奚开志 三五

記 好放野玩好取之 之腹君見、 奚汧志 好好聽覺 現石宋以於所 談

主 層其質各異 大彰明較著者弟舊白不必純而成片要完壁僅矣中層則石之腴也青花蕉白之 易乾 正洞、 石丛出 請視之有如段絲如鼠跡 色青花 巴 下紧石多水紋面背透透且砂釘夾 7 自 祖點業棋弗貴也 嚴取石架美畢備惟色 大西洞者佳大 而東 質亦復粗 惟浮 如蠅 西 洞 石、 翅 、燥故)澤遜 上中 間 面、

うのとうト 名曰天青 日古班 到 洞 品 石之美者其坐 曰 如 有翡翠或有鸲鹆眼或 也 砂斑 至或) 此盖大西洞中赋 鷓 鴣 能 斑 令觀 火捺而或 片 王潔無疵田 五色俗具如 者 炫目 瓤 有 《稍上之 客衆 有 則 美 不色 石之 雲 他 洞

站 红 不及即水嚴東洞亦相遜遠矣松嚴吳絕年識大西洞者必其石質細膩襯手而潤與墨親而

治氏手 緁 北 石 朝 徑 罕 堅 向 東三 西南左花 圖 シュー 砚 一十里之 坑 可 整催客 封 洞 門 塞 羚羊 在半 用 峡 右 臨 内 體 髙 石 江 尚 洞 數 可

名之 萪 梭 汐 iß. 和 經 處 進 に 西 可 泂 無 即 西 正 洞 名 開採過 港 凸篷 鐅 門 洞 一閉再進 年 亦 者 迤 傾 固 如 此路 向 寬 N, 西故名 迺 即 而 如屋土 逕 東洞、 洞無一 進 JE. 17 漸 洞 因 即 石 至 西 其 低 故` 洞 形 易消 可採 開 洞司 洞 酉 整 RJ7 地 如 洞 釜底 勢 自 パ 之 涸 形 凸 但 無

岩 溪進洞 矣开以 溝設 至 立 如 两 匠 燈畫夜将水傳遊 漸 車 作 洞 逺 帶領 水 N. N. 明 九丈、 須 排 坐 小工各 數愈 貯 用簽筐戽水至車 石 路高止三尺寬止三 增開至東洞 餘 攜 逐出并 五 小磁罈 觔 日 方得 毎 又須 須排 於 水乾 脚 三尺 引 然 洞 四尺 坚四 後車 門 坐 外 類

分上中 需 Ž 歲之內惟 斯施勒 两 をは、 取 月 則 長 有 公云、 餘 间 則 骨 平開 先首 圖 遇 冬 開手扶 記 盤 遇 下凝 如左 新 出 最 涸 時為 級春 百夫運斤 易而老坑端石之 水 可 發 卒述 生 採 但 雖 也 欲運 洞 車 傘

吳开島 溪 、研志卷 謂之金 故 傳端 現青州 自 處 終 鎖 其 谿 中 色紫山絕頂 表迄中夏 紋 赤黄色 石為第 有草蒙茸 楚 點 而 一組年 者 無 可愛匠 王永熙小史重梓 損 尤 州者次之珠 謂 冰 潤 或 云水中二 鴝鵒眼脉 如豬 赆 琢 石成 甄 绿 肝 硯 不 石 理 言

的 有不知者乃以為石中即今不知者及者乃以為石中的石有服者最貴調之的 环而為砚一 石有 匠 有服時於蘇 祭之 者 識 和重多者 山 易 人而 不應稱述歐公之於如前文房四友語文房四友語 沒好與友語的故語 不可友語 大野四友語 好好 最不成簡貴應引文 2 3 爾 脉 雷 為石病 電失石 白外 理鑿 冷 窟自然 縞 所 嚴 吁 凡八九 有可眼之中邻按子眼痛石說數所此石 在 眼之美 哉紋 其條則書 有圓石青紫色 重色鮮 石 有上 美自簡庸無 如見太安是 木 宗人本 掇說

端 石 溪 者 也或云取 知 A 鑿成 過數 内者 其 研 京線為美 、眼之多 志 石 闩 深穴冬涸 《卷上 者 石 低 以 工 在 服大 此 祭 眼 少其生於 正為病 以中 洞 高眼尤可尚以 别 方採穴中 小多少為 牢故 有 端 墨 老 池之 布 云 所 價 列 無 外者 不為 可睹 重 硯 輕 Z 取 不得 謂之高 如北 但 得 捫 石 和 斗 取 佳

蔡 歐 惟 Partie Little Lands and American 陽膩 君 永者 謨 右 言 勢則馬學現房書優北卷 唐 权住 援凸蹄土皆四錄劣海行 詢 恭 端 云 毫高樣唐心譜解以公於 視 端物 石 石之音光 則增亦彦四而題紅硯世錄 非浮心猷後看閑絲錄晁硯按 便泛凸作稍載堂石皇公客周 也之至紅正唐雜為朝武至客 必 有 To 磨絲平氏記第唐讀輸澄 為異 鋩 墨辟未硯四一詢書出懷 上其者 **深有绿卷端撰志而錄** 尤 在 類 發 向硯凸按不石硯硯玩詢 大 也 墨. 身心者未著次之譜之字 石 中生盖 出高始氏姓之故二有彦 歙 觀凸白視名陳事卷硯猷 石 墨至侍史述根及又缘好 色作讀古文孫其名三常

石石 為别 而是 墨 能云 出 茶者 病 端 也官 国 紫石 但 部 差, 石非 溪 充 司歲以為貢 有 拟 四 過 之 也子 玩 譜 将 石 軍又次 四指 譜言四實現為首 柯 茶 端按 園 将 之端在 之 兩 軍 别石他 呵 硯 地 耗 砚 以有 色紫 而 同 名端 譜 之緑 瀝 有 而端 眼 子白 唯

眼之別 間之活眼四旁浸渍不甚鲜 数 To 四 対 歴 第三餘省 為劣凝 里而優 十餘品以青 所出 汐 存 古 一迥然 をけ 国章相 有四 物 劣差 與西坑相去二十里石屋後歷七里四曜石為甲石屋次之西坑又次之 耳 不 在 同 中下 殊而嚴 晳 州 龙 重黄黑相 建安產茶 KI 雖 絲 石又分上下 銅雀臺古瓦硯列於下 石為第 間黛精 北 源壑源 斧 在 内 又 柯第二龍 歷七里 去沙溪 有活 晶 眼 坐 眼 띠 尾 디 而

歐 一京 時 勝 陽 腤 叔 溪為上龍 金坑碳云 酒以 开 李慶 志成公養端 礦 溪 用汗 污口 石歙 尾 医诸漫冷後 眼 殊 速 长题吟血 而 勝 無 石 出端 發出無 上账註痕 光 墨 然 眼 彩 往云則 端 龍 李 往唐謂 謂 溪以 尾 之 以人鸜 賀 而 溪 半即 鵒 死 斗以 端 肝重 眼端 眼 金 石 絳端、知 一州 活 星 錦州端 青 汉 為 眼 叮 後 4, 花 勝 為紫石 龍 出 為 石 淚 稱石 見貴 尾 硯 眼 蘊劉 硯

嚴未! 島屋 柯 皇 也一立 州 右不以 酒治。 先 高李及寶 江藩 際 至 職者 潮 之賜要 之繁石 號縣彦 南 七名即 1-2 日水 一起 電影 電影 表 事 事 事 記 記 報 電 選 主 時 報 記 中 有 空 か 音 監 選 主 呼 と 野 山 か 音 監 選 主 呼 と 野 山 か 音 監 光 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 殿 下 殿 で 東 声 草 山 か 音 歌 で 殿 下 殿 で 東 声 す か さ い か き で か ま で ぬ さ で ぬ か き で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で か ま で 龍之乡 三也 也 三 朝 也端 泉 上 目出四 政 溪 上馬里 和 柯 有 山峻 初 雖即 山 汉, 曰 為 硯

則通 壧 开 也 火之 故 為 石 む 號 乾 也 屑 **(** 則 所 日 西 大者 民 抵 水 灰 八巻人 積 沙湖 又次之 上 粉 、口 石 色 即 以 溪 漫 取 潤 陳 湧 硯 取 而 蚌 曲 溢 肵 公 則 青 客 坑最 自 為 曰 上中 蚌 煮 派 所 開 也 坑 孍 此 也 ル 瓦 龍 孍 者 有 之 两 石 2 以 水 厚 柯 其 品 肵

九口 知 矣 X 工. 之若 品之上 光 也 Æ, 重 雨 復能 今欲 眼之堂 飐 不 南 石益 絶 317 雖 壁 採矣 得 北 収 壁 泉生其中 下爛 瞳子南 石 秋冬乾旱亦 月 色皆少淡 上或 今世 石眼 北 壁 壁 所 正圆有青綠碧紫白黑 可 ناً 採 非 石 石 即 未當 然自崇 者 孍 石生泉中也 泉 往 、現唐 涸 往 水 有泉珠 於 皆 觀以 半 泉 浸 山 後 季 者 則 水 散 潤 國 稍 亦 石 屑 可 初

ñ 地 14 F 如之 是也 祠 亦有两穴 名馬中 石性貴潤色貴青紫乾 巩 梅 南壁 To 树 其中 圓 石 1 孍 嚴日 兩 相 嬩 正 石 有三 **尸其間通** 徴 類 梅 亦 黄 树 而少劣 相 品 通 土地 為 同 稍 下穴今石 焉 則 不 婡 灰差 孍 品眼 穴 皆 而 /勝焉· 地 帶灰 石色带 工以為中 蒼 北壁 潤 义 則青 黄 眼 石 則

美上黄 服者 遙山諸 啜 品褐 小眼 浮 石色深 潤乾 をき 相 愈量茂絲 類 則則 雖堅少差淡赤但 品 青灰 紫眼少 石色少灰青與一 职 潤 頹 **紫** 所少不黄 所維 就立然 不若下嚴 亦色 色色卷 深紫 眼 赤 邊即 黄皆下品 有 則 眼 逸 山類 眼暈少 者中 量偏 即 品 黄 也 白 南壁石中 極 有不 爾中嚴 多 綠眼 肾正 眼 重赤 品半 即黄 者 漸輕 南山層 北

如 色 坑 奚 歷 湘 开 ப் 眼 紫 取 唊 相 石 む 誻 在 極 在 如 即 蚌 發 州 類 ᆀ 與 ~长上 墨 也 北 蚌 坑 勝 胞 .西 堅 後 里 مريد VI7 歴 挫 後 想 軟 其 可 眼 新 墨 色 胨 孍 之 上 砚 石 而 胜

浯 壓 頂 聖 居 也 榴 下豐 2 頂 ميل 可 石 居 2 最 之上 中學之 上 住 如 硯 塼 皆 往 次 端 디디 撫 盖 也 人调 坯台目 石 را. مسلح 꼐 石 眼 底 也 次 必 皆 之 鹏 或 亦 有 石 至 頑 有 中 石 碩 眼 頂 也 中 麤 皆 世 或 端 極 作 底 無 無 洏 潤 不 所 眼 謂 石 豐 端 堪 誚 2 發 謂 脚 用 别

光小他 奚等小堪潤,湘 處於 117 研名秋用 後石 人取所石 志皆風矣歷後不端灌取 则 在歌柯蚌非歷識人皆於 **冷頭山坑油 石 往 謂 頑** 卷柯獅下自蠟皆往之根下 暗 上山子出門則极反野不淵 下桃大湖不地愛石才谷 血化江山地取之意之 山河中諸用 孍 正 通物 皆 之頭半谷 歲 石 以 地 也 麗新邊水久 不 太 早 但 也坑山聚油假璞也人 所有 黄諸為蠟油少息能 鑿 蝦 瑕 到 風說 有溪則

则 現赤眼 各 倍 為上黄石哥日了哥 為為 Z 服 者必 中機北空 價 多眼 端。 下上 老 2 有 謂 則 凝 石 之翠 水 了素 青 在 眼 眼 也吉麻 故 少 底 本 綠 為 腰 孍 嫩 日 濉 雀| 眼 石 5 石 邶 筋 联 郑田 1多有土 石 鎮 眼 於 盖贺雞 密 之别者 南 眼 溫 有 青脉 壁 唐端 曰 所 潤 以州猫 石 以 端 南 眼 重 日 而 鸜 肂 便花 頂 日 有 謂 萊 鵒 17石 石 眼 多

硯! 四 古 2 直 之 玉臺曰一樣日人 樣 形 日合 様 住 樣 製日 諸穴 風字 い日 者 人 歡 龜 亦 目 平底 倍 四 與 誁 天面 日直鳳 岩 쌣 硯 上 1), 風字曰有 後東道日鎮街村 及龍嚴 赈 曲 湘 日四直 諸穴 石 日 尋省 鎮 高得 ١١٠ 價 湘 樣石石曰 日古様 壧 脚 石倍 等 南 然加桃曰 幹 平斧曰 瓜整鑿 赫 様平斧曰 歴 蚌 者以樣 曰 恢 曰 裙 坑 雙 様效為日 卵 風 諸 石

文台石 耳 宣 池 日。 当 E 右 厉 有 和 秉 採 曰 病 初 阮 相 砚 19 不! !! 月 柳 竹 環 様 林 曰 星 刺 府 回 栋 跟鞋 曰 打 稜 海 惡 降歙 日寶 琶 秉 舦 力し 栋 様 列 3 造日形 漁 様現様 以 整上乃供龍 形 吕 腦繁是太 三 猪 人 一 風 目 日 日 背縣 上乃 日 月竹雙 風字 様 角、 前 日之廳 琴 秉 皇 11 様 曰 火则皮 書水如足腰硯 野應隔 曰 皷 府 鳳 **总一手處** 池 風 日 團 字 石名而若 作 池 日馬 砚 様 2 様日 崑 磚 有裝斷於 用 日 蓬 崙 但 溡 線 日 硯 萩 平 曰

如 端 即人俊石堂意人如 病状如盖火 矣 开右 澈又郵德摆傳端 志邵 孍 曰 博無滌傾人稱此溪石黃 智聞留端倒 毎 樹絲硯必龍 长見墨研失過祖所譜有横灰上後蘇安累之於為異平按之斜黃 錄氏此易輕厚太於祭淳他布色 所盖水 而 或上衆世熙 山石如 譜左其 遇 應 皇人跃十石上龍 次端清事 於 必之云年皆 蛇 第而率風才紹說右七無 难 甲右不生不與不縉月 乙級盡無能初知雲二 端人不以 不稍除不低人何葉十 一滞云人梅四 同與歙 所交日 歙 砚 厭 权東 石

服 色紫如 南省書館思 Prince Branderin . La sandaga est agente 者必有职 品中端 異或住 日鸚哥 显 所以貴 猫 眼日菜 該調火點為住 聪 石 嫩 藪 有 人皆貴重之載於譜 有 鸽 說 豆 則 服 职 一眼各以 堅绒 鴿眼 多眼堅則少)ソ 為端或以無眼為貴然 不特為石之驗 赐 各以形似名 曹 曰了哥 清 劬 其 名之 眼 眼 記凡数家 病 业 石 曰 雀, /翠絲為 , 乾道葵 眼之品 端 娍 溪出 眼 蛚 石 細 日 取 雞. 潤 類 巴 髙

少而色正者 故所藏皆 瑕翳於石 張世南 肌 既俗以四不方些且石之利眼余亦理既相復送了方水如後感都坑皆 - W. 沙官紀 方為佳 段紫玉略無點綴巴上見聖石有嫌以病以假眼韻度有 有嫌少 石曰西坑曰後歷 聞 病 4

知世 之後理 下而 青 歴 \sim 極 歷 故荒 紫色向 論右 石西坑坑 慢 乾 不以观 魏 得欢者 泰 的 省省 \mathbf{e}_{i} 鴨 東 研少明 三當嚴石之一也 獨 現 我 不 不 不 一 過 視 相 存 來 是 光 社 軒 而採曰 端多筆 取 其 溪 用 錄 头次,以刀端之次其失一次至南唐李主時端溪舊 後類點 溪蕉珠 謂母石 西 之石其

無它未皆 盖 而 歙 端 知 事 土 色新不

大石火 去 下縋 點滴 臕 點 然別是碧玉清瑩與硯質不同燃方得材色紫青黑細如玉玄 有白 長吉 深 青 **入穴中方得之溪下**嚴 居水底須千夫堰水汲 詩 花 點如 是 2 須千夫 也 粟訛 排 然 名 青 現 等 具 引 字 自花了,石今訛為到不同唐具淑明 其花了 水 濕當方 眼 坑 又 青 頭 卯

久是如 如 眼退黄圆綠石而坑石之如不臉者色色别出久 鴝假包為而紫開此為磨絡眼無如一二 眼確扣横暈新 坑 種 之而或嫩 大 重此無長有 别 肝 孍 出 量坑巷為綠綱西縣之磨條如 無不 新退 坑 銳 聚之磨 小亦墨紋或玉井場亦此白有 小亦墨 謂 假 無種像眼

如鏡面不堪用然舊坑差勝新坑今士大夫所藏見此為下嚴舊坑不知此去下嚴已低三等人中見一二耳世人見其希有又目未當見古研逐中見一二耳世人見其希有又目未當見古研逐即的為下嚴舊坑不知此去下嚴已低三等矣明為下嚴舊坑不知此去下嚴已低三等矣服於之所為下嚴舊坑不知此去下嚴已低三等矣 眼 者画

溪微進界 相有御行去小不相 刘去小不相作天點稱問 端淵照青者頑 號硬者紫如然 黑 鐫 溪 矣 然 卷刺様今不 上者以端分辰艳鏡以别脏溪明沉金面之 人民今州带間 雕江負人黑高有琢南販不石宗金 士者知色朝線 重研黑價珠端 或以如愈

去云故砚 不 歙石其, 堪 右用 魚 趙 此 希 異常雖極工巧而 之 洋 然 人 (抵多發) 漬 溪 石

開石 錦 譜 方观 鮮 人間重 研 王 泉 云 志 夷 走 有 石 億下豈天然王端吐水霞光净彩翰提風終人間重贈我應知正草玄闕里廟中空舊物少血痕劉夢得答唐秀才贈紫石硯詩端州 其色鮮美自外至心凡六七重誠為空在所當端現其一眼正圓大若灰實書有文皆物之奇也烏得以病言之舊目石有鴝鴻眼為貴眼石病也余謂不然 刑挹水含滿唇 也余謂丁 不然 耼 綘物 州

柳公權蓄砚以青州為第一絲州次之後始重端為石之病然石理堅潤而具眼者固自佳若以必端研以下嚴石紫色者為上其貴重不在眼或以端研以下嚴石紫色者為上其貴重不在眼或以 辨之 祭石有絕佳者與端石亂真特以其無眼故 祭也惟端石乃有眼流傳四方以此為辨若 得唐以州

發端 而奚所志 赵太上 學家一名 與那不色擔而燥肌理稍愈然中境及實不及梅敬悉和之有聲但性質堅礦断裂尤端不色擔而燥肌理稍愈然中嚴又勝城 不色擔而燥肌理稍愈然 中嚴又勝 孍 孍 研下 而 嚴色紫如猪 次 王世貞宛委 2 餘 理 沙梅根 瑕勝 尤 多瑕 潤 关 正凝相孍 疵 雜 新 名 秋

人以晶 鮮 崕: 枯 眼圓暈 明者 石色 潘 职 潤 瑩 為 永 後 淚眼形體 數 微 歷』 權 因 圓 王 重 明無瑕騎 黑佳 宋秤 硯 石 用 青 青白 與 魏 者 新 類 有 略 黄 純 坑 抄 如 具内 未銀 者 黑飲 略 参带臺 為 相 相 石 而 食 間 活 似 眼 皆白 羅 又處其次 極 形 現張 紋 模者 而 簽 為 最 墨 西 類

李主創之唐未見也見王中舍硯之下站然然然明石工巧如水下通用程泰之下 自今、 山以次皆不及也具住云目今齡之細潤發墨總不 洞 多獨石鹽女牛 泥硯未 肠 外天下通用中海金自七 在李士斯天寶· 在泰之日報龍 本本本本之日報龍 許 則端之 注云端 渾 端 五 自而 廣歙 調其恐 至 列! 之器 斵石李 新興 雲 柳 石 尾 詩

在又處後 **処色紫而て** を石田蚌さ 至 州 例 峡以對欽 卷 省 西山時 花秋 死 下 文 色地為坑風爆火 也 之凡為下四拳 石端亦諸花有쏋堅石石坑諸軍為 種 堅石病以不不有其水 曰孍 勝龍 類數十 中全 華 趣 東 華 他 眼 者 孍 目 乃唐 小 石 出 湘 取 辨 抗 色

		右方以智通雅	理横斷者極發墨宋所未有又何取乎視	嚴之城而有鋒也朱子服宦母最留心水	
			何取乎硯山哉	最留心水坑石打	

我手快距郡東三十里東三江之水其山產石 大堤山皆牛毛細皴宛如盡境峡山青水 大堤山皆牛毛細皴宛如盡境峡山青水 大堤山皆牛毛細皴宛如盡境峡山青水 大堤山皆牛毛細皴宛如盡境峡山青水 大堤山皆牛毛細皴宛如盡境峡山青水 大堤山皆牛毛細皴宛如盡境峡山青水 大堤山皆牛毛細皴宛如盡境峡山青水 大堤山皆中毛細皴宛如盡境峡山青水 卷中 產石類

The second of th 數點者梅花坑 碧 眼 物有洞書宋治平四年差太監魏某重開 奏其冠服於此坑下度小山回新坑其石 點長斜似眼無瞳每石一片可得十二三點 白 大如螺若 仔坑其 石 飢水巖 整中虚崩閉数百十人 叩之聲冷冷久磨能滑旁有塚 在峡外三水境中峡将盡好南 '張日湛湛無神真賞家以此辨 朝天嚴惟青花中黄星密麗如塵 太監死焉守 名

捺! 純 烨隱坑 是下為水坑折上數十武有萬歷二十八年差 據無窺者亦可貴古塔嚴其石比朝天嚴無少 不好解外風日宣德嚴在屛風背下去水嚴二里許 縣於風日宣德嚴在屛風背下去水嚴二里許 不好解外人不可得嚴好坑東有洞廣如屋 是下為水坑折上數十武有處其石比朝天嚴無火 脲 紋 潔 其至壁斜: 开 堅質 青西上越 不能滑腻 水澗 火條紋成 初色多如 朝天 凝黑 結不 朝 暈若

聞 遁 腰! 洞苑 鎚 洞 急螺 池 _ 柱吉 轉 洞 旋 江 上東 唇上唇近山沙透 17 西 艄 西 七鎚 队膝 折進 内官監太監李鳳 **y**]~ 港片 洞 洞 不 入洞門轉有淵不 於 河次之西洞又次之土人出外, 一人洞門轉有淵不次之土人出外, 一人時殿所置磁盤燈於胸以燭之外, 一人時殿所置磁盤燈於胸以燭之人, 一人時間, 一人時間, 一人時間, 一人時間, 一人時間, 一人時間, 一人 盤盛 三 皆燈東之 以 膏 月

一層紋無為層拉其 斯 上可餐不一日 有云有所蕉青上人雜質 下之出葉花唇水所微 督珍西 白蘊石深謂 石同明其結病處青 也拱下絕故早則花 散見 又 壁唇 吊 辨嚴青紫 下矣間久水諸脉石 沙 馬此多 麻青 瓜早坑隐上 尾底脱鹊花瓤凝反伙唇翠 班及進按者無漸為雜 成生白公此病漸筋三按 魚 蕉 之汗為然嫩斜硐慶 凍 葉 上漫定亦是結石 翡不皆 層 蔚 如下正注唇翠化有漫 番石 洞更 火 拉至翡 藍 涎 工下在捺 雜下泽江

朝得同我 行 必敵炬 单 有火茶紅 若 澗 بن زنز 例 錢 北細察 E 接 日周芒 業下翻汗 明 之旨慈漫 類 色雜葉吟 如 き 拖唇 涎 目 如慶映之損 背 金 卷 注石 朱 花游漫、花游漫、 隐大石隐青工 白 又花又 近 汉 不注 如 蕉 運若 鱼 品 兒 白 四 花

职 四彩柔暖有生 奚 黑国唯一恭 稿 即圖正 亦足賞東 八开长 石面工品為 西側 亦移人情三洞俱水中冬月引水 7 明 為深處 如豉三 氯 媚者 洞眼碧色數量對之实 鲜水 尔 目 正 二洞石正洞下 **荷題磨之** 飛 眼侵 洞 **鼠巖其石有紋** 亦 有黄 與墨 此紋游揚 唇 7 有之 相 第 親摩 回黄 晒

樂宣徳間 坑工受官 船守坑律 兩 不敢自 质 不能壹執成說要以老坑具研 餘年未開也大抵石理日旬官後日有程不擇層珍 開 閱 日指揮蘇萬那致石工於 令盗 坑未幾俱罷去崇禎末 月費金錢至累千金舊 日中也丁亥後守禁 此坑石比 竊盗論 膚理鑿伐 坼梨 刹 江 獨 乃涸 罷 厲 至 把 晒 總

岩 硯 榮衛或可以少慰於真宰也 出天地真蘊 子觀覧實藏 便成陵谷無有問津 之用發 戶厂 人未言之見聞 一其言殊、 端 墨 墨不 山 别 開 损 知此石質雲漢之 Ż 徴 7 毫 元氣 重 所見三十 者盡之矣 說 慨 之處爰述於編 漸至竭力 各護 夫文明之璞 欧所偏子 年前石與今異 **鍾萃三江五** 耗 数十年 庶幾後 既喜身親 且 割 訪

其 同 之水隆不極之之。之唯發墨之小之水降一人一是細則拒墨之外發馬則相 之事 非 親 試 肌 膩 知 拊 留

石だらずい 固 言端溪石 見不能 所新出之石 固 燕 奇百變不可 耶 齊客端 侨放剖 所財威亦有出自 陳恭尹硯考歇 19 州 執 析辨證已無遺義然近歲 頗 九氣韻顏色幾7 **说成說者** 詳 盡 殫窮豈南離文明之德獨萃 校 得 而以 三洞 均践曰于當 水 天 精 地 孍 足亂真不 英華 **蘊辯督毫芒大**漢 如固齊 日消 往 深心識 謑 日 往 石 語 為

日喪尺十之扇雲情水狀氣含九淵 分月 以自 為

有消無長山腹穹然穿穴科向無石可觸雲不能避聽豈在一卷光華可仗水坑雖美於寶無當作在瓊瑶不讓大撲難完經當巧匠天地大文惟人 聽豈在 人看照相望 發育無功属生腑城負之 矣开! 屈 大 山靈自災敢云无妄曷不崩 以自深廣 跋 門的柔 而 趨 巗 粹肯森 自 創

لز 右轉 乃水 坑左 溪 峡 石グ三 数丈為 自 多破 溪 東与 也 V 碎不受斧鑿 西坑坑 以 匍 北 以嬰蹇傳水注棺質既大為東坑東坑以 火於而東洞尤美其美 上層 匐 <u>---</u> 稍 最 至 元 雜 小後 五 西中東三 第中 外 其 俯 即 為中 一坑 從 矣 =

氣紫折 華也外 おき手ふ 白成大片 隐 隐浮出或如蟣 風脚者為上愈 **精班者水**

敬 雖有墨痕 宋古硯大率老坑新坑等十餘種落墨而不 溪研志 如雲霞氤氲温柔長媛 彩卷中 織蝕古色可愛然不費水不費 贤石矣子 皆得 斯八 之 随也得之

成鏡面惟水巖石停墨不乾墨着筆端即超積痕,宣德嚴朝天嚴諸石率燥溼渴筆飲墨从用源有如水壧之美者他若黄坑錦雲梅花坑屏恩 均 宣 治 平中於此采視東坡所謂千夫堰水

肥沿 最寒能傷 沿洄曲水而行行皆向東初至者為中有軒有寶或盤或接乃得至以猪 必有穿漏之患昔人 眼 汲深篝火下縋百夫運斤而 **州白其後為** 又入為 坑 野島 曲水而 自 高而卑二里許魚貫而 人又入為東洞康子 西 孍 Ž 出 北 宋 洞 所 亦 石 爾純粹 開坑 取 取之以永柱代矣几石 石留 名 水隔深近外 日康 得 之前為南 杜虞其 入不 者 西 巖 脂 得 清清 昂首 者 洞 业 其 洞 石

堅處血之所 體 石乃在窮湖水之所疑雲之所成不見浸於水中乃見必須心如毫 君青微有青花如秋雲綿密或如水波微塵 處實之所成故其色白其一 巴堅 石二八 此真 為 麁 鋜 其氣雲為其神八石之 石内 月 端 故其色紅紫或黑蕉葉白者石 溪之 剖應乃得石火捺 族 一片純潔無班 價過於 王而非王屯段乃知其 質欲 瑶瓊者 知其 化 類 而

有於四人不已中洞尚可容六斧十二人東洞 若無幾非片片皆精好也 我城為新坑為嚴好為宣德嚴宣德嚴外巴無石 不明為京帝 四人而已中洞尚可容六斧十二人東洞 容二斧四人而已中洞尚可容六斧十二人東洞 有於 四人而已中洞尚可容六斧十二人東洞 有於 四人而已中洞尚可容六斧十二人東洞 有於 四人而已中洞尚可容六斧十二人東洞 有於 四人而已中洞尚可容六斧十二人東洞 有於 四人而已中洞尚可容六斧十二人東洞 不 四人而已中洞尚可容 一條 地名 一條 為 一條 地名 一條 也是 許故硯 之大而佳者最難得通水爆中石之結 一数尺去其

黄於 段 魂 人 開 《震長大而童重不甚分明質青亦應則山水在峡南後龍華寺後而入石皆有服而なれ在峡中,在城水是大路、大石時有股市大路, 一日也他若亞婆坑在峡北從第一條坑石, 一日也他若亞婆坑在峡北從第一條坑石, 在城 爱鬼魅之為害或亦山靈不欲精華盡, 在城 安鬼魅之為害或亦山靈不欲精華盡, 在城 安鬼魅之為害或亦山靈不欲精華盡, 在城 安鬼魅之為害或亦山靈不欲精華盡 坑人凛然 而 老 開皆於七 血墳奏其客

之泉 冬取 耶 北 惟質水亦 将軍鎮之下名為将軍坑者取石其石色黑無情華有盡一卷之多與蚊螭爭於水府煙壁一橋華有盡一卷之多與蚊螭爭於水府煙壁一橋華有盡一卷之多與蚊螭爭於水府煙壁一橋華有盡一卷之多與蚊螭爭於水府煙壁一橋華有盡一卷之多與蚊螭爭於水府煙壁一大為最大人人力強不可以人力強求子少頗畜硯以熊制府所 将軍鎖之下 而 始 奚 开 公子 **7** トニ 华皆、 於

花細細似微塵蕉染白中時隱見空濛雨氣成黃洞先東西使君最睹紫雲片脚踏青天割為硯青 端溪水蠟之口臨江低 色未變中間火於暈如錢牛壁陰沉望似煙翡翠 龍欲散不散浮水面猪肝淡紫方新蘇帶血千年 大漢有乞硯行頗能形容其美解云羚羊峡東惟 或治石言 之精華結淵底就中紀粹含乾德紛紛指正浙 端溪精華亦已盡矣皆從友人得一硯名之 美山 斑斑麻鹊點多圓城是水廠石中 石師匍匐下絕磴中穿四

肌 奚开 盤 絕 周 日两片琢未成燈我一非石子縱横六十十 身 君 自成主璋不 會為 寶吾難 水碧金膏盡糠批分我東洞命匠細磨襲中有三方最高 無 神 不 胎 儀膏滑 之上 點為 中有三方最 何 那 而大璞 已與瓊瑶似使 追 甚端厚蕉葉青花 須 濡 活服多雲 銘 美其 霄亦是空 剛 割 似 浸 間

君門或偽為住眼其上蠟以沃之亦可觀不詩云之又以飛鼠 城之石細細磨之然後上蠟使頹色 起時前細沙和魔石磨之次以蚺蛇坑之石細磨 居观先以水 城口之前亞婆井鹿石磨之次以雪 九出城在坑好可磨刀大抵工工工城汝只機毫翡翠珠砂總 **丛其元在朔與我心華紀** 多石八八 十段勤浣濯 湧雲蒸書成 無諸瑕

中有量或六七眼和二中有量或六七眼和 之無甚聲 · + F : \ 新 包 者石之筋絡 坑絲 磨 府墨有微聲外用鋒芒退乏此 有條紋或白或綠和之及研此 有條紋或白或綠和之及研此 有條紋或白或綠和之及研此 有條紋或白或綠和之及研此 石色黑如漆 和之清越研之無聲 石類也 水如鸜鴿有量其城若不退宋 時此坑取之十 鋒芒退乏此不 然石美 双肝色細細 細 潤 間 有 服 巴 服

萬全性多於監禁以發坑石惑人每得重價白石門光如鏡面比中嚴又遠不及總之水嚴石以製硯門光如鏡面比中嚴又遠不及總之水嚴石佳者的不好不以所有村曰黄江居民五万餘家以石為生其琢紫石者半白石錦石者半就石以製硯台石錦石以作屏風几案盤孟諸物歲售天下蚧倉不鄉形如雞眼大和之磨墨皆無聲有沿板紋头 下城遠甚上 湾 研志 殿舊坑有青紫新坑石皆灰色紫 部皆由身! 端 溪 议 耳 為

盈 伙 内 下八十 月羚羊峡以吏 而 自 而, 朝 外 四十、 入積 水口 天 利 若 漸 傳 法城三層石分三品焉上城者質總五十人坐以便到其內得石自內傳之外出其陰溪長一里許廣不行不可鑿也鑿石之工多黄江村民口府不可鑿也鑿石之工多黄江村民口府不可鑿也鑿石之工多黄江村民口石不可鑿也鑿石之工多黄紅織路壁城高三口石不可鑿也鑿石之工多黄紅織路燈由六行人坐以便倒其內得石自內傳之外由 石质不分

是 ショントーン 相 金錢紫氣既竭白氣次之 丝 日青花試 以墨若熬釜塗蝦者 謂之翡翠白凝於綠鐵 近白有跟沉水觀之若有 不同紫氣奔 謂之盛 調之 一 雀 点L 蛀 旁色煎 謂之黃龍若緩謂之 班. 而廻磷 丹若 而凝 栗者 色 謂之火捺聚而為 謂 而長者 漸青下暖者 謂 謂之殊砂 蘋藻浮 之蕉葉白 外 斯為美矣 金 謂之玉带 少動其中者 線 班 剢 輸

為眼不貴黄 THE RESIDENCE THE PARTY AND PARTY AND ADDRESS OF THE PARTY. 城在水 城之 南京 有鸲 不貴長也 偶者也 省石 六 心自 若 辨 眼 42 時野不明必泪眼也形體略性地或三五其母的沒根被強強強強強強之思避者為錦錦為獨比之思避之為強人人其量是之南连石易與水嚴之思之思之以及恨於我以及恨於我以及恨於我以及恨於我以及恨於我以及我以及恨於我以及我以及我 有鴉眼有象眼 A 風山背有石 形體略 思過半矣朝 暈暈 者為象眼 備光彩 趣蛀 矣 西坑 有奇 恨蛀燥有 其

世本三水縣境產石亦有偽器下之水 嚴無異 宣德年品在朝天縣之上山多虎惡故歲外無保 电 在三水縣境產石亦有偽鍋眼方之水 嚴無異 电 在三水縣境產石亦有偽鍋眼方之水 嚴無保 电 在三水縣境產石亦有偽鍋眼方之水 嚴無保 电 然徑尺之石服多至百數光滑而易裂不知現 也然徑尺之石服多至百數光滑而易裂不知現 职 宜松 色 深 程尺之石四 有若金 然或如然肝或如然綠或如此錦或問道 銀氣者其理粗其質燥其聲 抵拒墨者多向日視之見有若 鏗 響 如

黄龍中則火條燕歌白下始有青花鸲為 舊日所得為說示之俾審所擇馬去海塩周福杜從子學詩以端石 者 子遊嶺表正值採現時購水嚴石百餘人盡性服是求挟之以為希世之實特宋人之燕溪研志 聚卷中 也端人重 右朱髮尊說砚 鴝 為則無火捺蕉 葉白考之上人上 傷得如珠玉而蕉葉白乃膛乎沒 石砚為贄乃追 石百餘人盡 眼

高 北 而 身先用 三尺小如主實是為水嚴 入匍匐 行三十少有山宫然如寶盖其乳 洞 矣 勢 蓙 开 曰 中曰東曰西冬月水 超 砚 F. 3 2 伏行 两足 上為 為 坑 No. 追 東 投一 於中 度 西 洞! 洞里 下继 東 门间 後以手攀口 許 鄰 門 益 為 狭又從 中 城殿口止 涸 江矣 汉自 洞 1) 可 從中 嚴 口腰絕 容一人 春夏之 中 自 洞 洞 溪登 左 右 折

图 洞 15 挽 一整, 幽黑 可容六 ブイ 綆 石 如 彼 堂 汉 7pf 俱 _t_ 層 两人共一 深 杯學 更 不可復繁 無 籍火下 鎚十二人或 至 替 A 知 用 石 晝夜 質廳 水 盖 惟 竭 洞 在 一堂 縋 即整亦 偪 豚膏 百夫運 須 一堂一燈一鎚 曲脊 花 四 鎚八 藏東坡 板 斤 盤 鎚 最 仰 而 而 燈 得之 以燭 碎 肵 排 西 更替 洞 鐅 謂 成 者 亦 東 硯

歎白必些光 翠之屬以 矣 得 黄龍 石 八石 班黄 パ諸. 两 穷 有 得 四品常雜見於中層青花鳴絕以辨真偽而青花鳴鴉 眼光好黄龍玉帶米鼻蛀蟲蛀鳳涎流 光 者 縫 如 九如玉麻水 金碧 念中 王带 蟲 髓三 如山水 水雀棕紋斑圾 省纵 虹 者必然有微氣 拖 洞石 逗出小孔 在 黄 紫 雲 缀 中米 涎鎏 氣連 數 園 為 鵒 點 蜷 與 至 金 如 眼 硃砂 金 金 獨 如

文萍藻馬 眼 愈 -如翠羽青 礼花 关 如銀 也翳 色 圓為量 鎏金 蓉或 為量為碧色暈必數重晴如點漆點添點係尾線不一演綠波繁者然不多見也能 光工 砥 而 則 金 石色 带 為 色隐 臙 黄 死眼 脂 如 如羊肝常若在水光彩燥 一點浮在石上光照了 弗貴也三洞之石中 片為漆精 數重晴 華内當其 洞 澹 與 鸲 有為 非

、塊不堪巖 以理不能發墨亞婆坑取如 龍而其色枯實塔環绵線 立龍不其色 風背 入幕 今 紫而 複 近 仔 攜 堊 諸 存 有 生往時相尚宣德 嚴品在一年可觀但多鏡面與明白五石工常取寫元水大概至亞婆坑取如綠豆亦在 多産 鸡 坑方寸之石眼軟 朝 鵒 天巖 弘面與明: 眼不減 山 未皆 有. 凝 無 衝 有 瓦 ____ 洞而其石 出在 星 碧 然 朝 马马, 捺 色 色 無 而 損 初

迅增湿水輕論花收四 上 多 諸也而人卷 街 則在 按甚成成聚而其重故服而 梅 帆 タク

四南 工而

唯 白 捺 之花 坚 取 蕉 存 绿 硬 石 点白青花头 非青 山 不 宜 此 脚 層、 種 砌 者 墨 之間 花 僅 譜 辨 質 似乎古 二三層 岩 地 色 耳眼以翠綠 岩 說 其佳者 火捺 亦有 在 黝 也 今觀 邉 和 及 散 隅 粗 不 見古塔孍 往往 则 老 花 雜 布 中 坑圓石正 無 花 最 有 碍 現 紋 間 層 眼 雜 业 眼 則 如 縷漬 此色 蕉 最 雞 為 叠 者 廢 難 白 眼 卵 得宜 惟 中 圓 形 名 石 水 坑 色要 盖 鴝 始 蓋 正 石

弟 孍 不 佳 無暈中晴 一發之氣 者百之一 渾乎然 眼 有 外 其 價 中 其省 質 捺 輸 洞 솼 亦黑色 者 矣 有 西 二巖 黑量中图 眼多光 始紫今醫於 細 數倍歲石 洞 東 腻 不如坑睛 亦有 出 洞之分然統於 彩巧鐵 石 止 艱 淡 市者皆亞 而 红 佳 層 2 孍 焦白 P 紅 可觀色純紮坑 者十之二三 眼 愛 开 較 但 一婆坑 坑 国 無 - 坑週 出 黑色 朝 石 多 故

坑 之北 研 有以志 碑一為子 走 離 為子石其磚以照鈕玉樵而子硯出程亦有火捺蕉白青花但眼色金黄筋估人名曰翡翠以餘聽子窺其理性數十武與坑石一脉盖此處筋紋有華結聚於老坑成眼故有貴賤之 僅: 筋 粗 佳 港 者 之難得 如指 頑硬 也 如

必 好然 石之分層也 日驚紋非 少 所然 石之分層也 日驚紋非 咞 な 形硬不宜墨然在 光硬不宜墨然在 非其 紋無長條 八質也盖 誤指 石理之目 二字 為青 翡 濁 鵲 斑

联盖石之精 必 奪目良! 砚 訊 耳 塔 器 有 洞。 嵷 斑 佳 石 可 俱 同 翡翠斑 则 石 而 華 寶玩 塔 有 則 不 工整 石 眼恐執 其 用 眼 大 眼之說 工 不 軍翡翠 **2** 遜 2 無 北論石未免魚珠故城地又新好 佳 稱 以 於 用 為嫌 材 一造化 者 與 石 新 不 質 自然之工巧 稱 必 村 朝 細 潤 嚴坑 談識 催 职 材 屏 不 者

端 耍 服 漬 在要脚 溪 眼 自 更可實 研志 四 賞鑒大率住石雖 礪 可 要位 用 材 不成全 為 故 如 置 墨 卷中 子論 一所掩 說 五 重質 要 止堪 是 體式六要 砚 委 無 不 纵 宜 饒 重文 服 棄佳 琢磨 要 可 神 也估 者雖 用 琢磨 石 如 氣 要 而佳 無 材 質 眼 質 質 耿 美潤 要 观 非 而 服 兼 無 偷

脚 沈 眼 於信 痾 亦 燥也雖熟 宜 無稱端 一說 是 其黑 眼 宜 红 無 也 犯 以 暈 氽 聙 眼淚眼之說大率層暈分明翠綠 硯 論 武之矣質 精不貴並無暈睛益 洞風 多 說 側 耳嚴 拒 面 迎與否也南箕特未得住者故人矣質嫩俱宜墨色濁質老冊 墨宋人式 曲轉運不易置木斗車 石監矗旁為正面上頂 黄土黄象牙 用 例 面故磨外 下 骨

黨問 人秋風 故 往大 其工程 工在内 大村小鳌甚以頹石充數具工程好以現之多寡好 砚 斧 小整甚以頹石 整 譜 風 张甚難! 處 其山端 **有桃花**蠍 則工人 ~ 嚴之名至 正故又名 洞 課 矮手足之 督責工人 程 · 而不必區區:数故必兩工彩 一下孍 端山山之 速 用 中 能 瓦 於 報 7.经 舒

沙 則山頂頭馬山川頂高 列 だ 新祠 於矣若大小湘城今要邑禄步司辖在郡村在老坑左數大許則老洞之為土地殿村五大小秋風或即朝天順更無洞口替其大小秋風或即朝天順更無洞口為其地服洞口等者其北山湖河上海人地腹則下城高在北坡海上地域的大路。 一条 一 最名臘

五色茶大理之 将軍 奚开 可為是用 一類而譜 憑號 长 者之 T 长 砚 載者工在城 而 市也石皆紫色無 敢作譜者米南宫八年,很神我題即七星嚴也,很轉名目綠端至 煩球漏 隔 五 弗 里 綠端全工 1111 洞坑磨也全 綠

你無水山石之細者, 今得之矣 騲 於不 30 37 其二珍 工採 舟防虎 142 白翡翠諸 不下 初稍晦夜有虎至坑口為茅家蔽風日石多匿其住者頂偵察之凡採石先禱 之而 而無用竊怪端硯之著稱不知听謂之細者也價至贱每磚不過分計全東諸山有數洞余嘗至其坑坑止丈 1 稱為亞婆坑此坑 Ī 峡

些山多 有石自空 而 来擊

不又深為者 用之可以敵

硯 不可以观 特 硯 端 不凍 观 澒 日 州 壓 聄 頻 南 硯 砚 卷 使 立或云真老 媛 Ż 坑 **v**2. 中 致 過之或 述 墨 文 東 綾 損 都 積 口 洞 即观 火 伤 時 南 則移泛 硯 翰避 即 硯以試 无 垢 墨 也 數

内名重 孍外 字治 稱 姓 目 平赋之仔 名 仔 及 鼠 城 間水 又 至今自 宣 迎 爆嚴 高 而卑其深語洞洞高 口 宜 不观 為 魏 石 宗 1 坑

而 湍 汉 BI 具 後 自 至底 甕 諭 奚 當 汲水次河口魚 洞 昕 中之 口魚貫而入列 志 卷中 曲 坐其間真 一者必先 燈 於 亦洞 两 岡

石餘 正 之可观者 ニュ 必 廼 洞 函 上仍轉甕通汲否則 起峡内大江矣每日 加左轉十餘大為由 左 洞 因洞 其 如如僅 門 名 近 為 山面 西洞從其為入為中洞西洞從正洞又地或多六七四從其為入為中洞。 两 之去膜 銀 礦之砂路上下 與應然後 石中 四 业 役

亦片 自 一四 河 河 平 火 次 黄龍 淡 清 大龍級衛門 裁之恭 武石 許 至青花 上品 · KI 朝所成 今

A SECTION OF THE PROPERTY OF T 卷中 圭 脚 反 白 堅 直 混 枯 彷 如

及不可見殊砂斑翡翠者以解妍光彩不 者有亦無害麻鹊斑者如麻醬細斑若有若如豆小如芥子黑白分明有肉有睛睛貴黑肉貴 如豆小如芥子黑白分明有肉有睛睛貴黑肉貴 光不貴黄若如人張目湛湛無神及泪眼肉眼無 光不貴黃若如人張目湛湛無神及泪眼肉眼無 一時候下但眼在墨堂雖好必去而好眼又不 一時候下中母眼在墨堂雖好必去而好眼又不 一時候下母母童之石有眼數數 一下母眼在墨堂雖好必去而好眼又不 一样古塔孍盈掌之石有眼數數 一下母眼在墨堂雖好必去而好眼又不

如一樓對之爽 者 土氣 且三 相洞 爽侵! 之

,以 文得 恭入不一洞得 磨 之無緣 、 寛 古 色 砚 前水坑蜜 長愛 白後場別五元人 小亦不過六分女 人掌中水濡 通 端 開遍 體舊水歷 適 班 諸開砂 得余 刹

75 158 而不 姚亦 治时 而眼 肽 火

龍狒 背 水嚴然較諸以水嚴今不可以 綠 茶蕉白少莲, 石色如 多督 猪 紋 用-明 勃义 生發 磨 必滑古塔縣 風日絕少生氣宣之及石工鬻此每得五 報機 編編 無班 者 一石質 拟 而 猶 12 占 而細葉 一德 價石 員正 潤 間 細 析

孫者製硯名曰緑端全不宜墨其他處余未親歷其質粗而色青無蕉白青花火捺亦無眼至今名 果色山水紋如大理石者製屏風與香儿諸器小黑色山水紋如大理石者製屏風與香儿諸器小果 的水城 未開俱於七星嚴北将軍鎖下采石 不細潤微有青花蕉白火之光如鏡面不發墨也 不敢以道 A PROPERTY OF THE PROPERTY OF 開 附 會其說馬 下發墨 星今曜名 歷其

好為院 梅花院有宋治平四年 宋以、 具呈官准 溪研志 沈舊時 有 仆 取 同質異名 周 孍 念中 和司 民[7 氏硯坑 為 쌣之 開 硐 甚嚴今 東有 石 開 水 太監 其 周氏 西 重 名 巴 硐 整為 考惟 開 不 題 讷 盖 阬 皆 無 画 首 研

石 75 青脉 光数被 裁至及以有 剖 之恰 似 者 باز اخر 去 必 飛 為 東 好 同 鼠 遜中層方 有 初 凝之晦暗 始 邠 眼 故 眼 蓰 辨 具眼少失 為 片 码 佳 妙質 石老 石 石 少神 病 分三 不 嫩以 唇為最 徒 則 層 分寸或 汉 氣 別 申 服為 枉過 不 也 東砌 層 見 Œ 洒 服 中 驗 硐 20 但 眼

婆等院 人也 無睫 而滑 坑在屏風 有片 亦有 有 黑絕以睫子分明園 膧 石可得數 石最多此則 1 無神為 朝 火於毫釐千里識 天諸縣之 死 眼者尤石之疵北好 眼為瞎眼為淚眼皆不 不容以眼名之矣 間 活 被 者立辨 明 有沙澗紫秆白 娟 為上 1000 他若 待磨 亞速 質 玧

匣 経許敬宗 ₹ 現 次宗現後官杭漁人於浙次明記 次武以澄心堂、武以澄心堂、武以澄明造现最六七一、私城甄録。 即敬宗物 叔銅

晋 ا, و 有 銁 砀 两 殺墨 砚 遺 見 圓 有 右 者 者謂之鳳獨多听謂 於晉 東如孫 下 稻 坡 方蹄於圓 風華 額 雜 愷 紀 老 微 昕 莘 老 窪 恒之畫者有恒之畫者有 老僧 真四百餘年 其 稍 求 州 天生臺 物 巧石呼 置余 頭工 為 筆 當 端石也 者员 圆以 風 两字有服盖如 身两字 鳳作列 潤 相不 办

像或有四邊刊花中為魚為 **爆奇品也** 夸叟家右軍古鳳池太石硯心四所謂硯 鬼如其一過藏其一名賢良硯 薄上狹下 潤峻直不出足中坦夷 奚开 引問如銭斧之狀仁宗賜史院官現母 東坡頹濱兄弟試制策各携 而足或圆為柱巴不達 右米芾現史 ŧ, 1者凡此形製 稍有風池之

兴興許 旅字 尺色赤風字樣云右軍所 方名品幾至百枚最佳者得察君謨所實端 名之景星助目又一端石古斗樣長尺餘圓厚寸餘可徑尺色正青紫緑有一眼才 下有王禹偁丞相書玉堂舊物四字 Ž 石 示 高似孫硯箋 即 師 圓又山陰老叟稱右軍後持 正自為兒時已有硯癖所藏 用 尺餘馬肝 圓

所志 多多少

有有 開 晋公自海外從宅光明 松特温 月之題尚至云 時照潤之甚不可名林丁氏子孫至今寶之尚未生放視之但一黑 照 好大端視一枚上至是歲 橋来貳郡政即晉公之孫計其所留至是歲 橋来貳郡政即晉公之孫計其所留 有王明清排座餘餘 常知涵星視云箭慶丙成歌 州臨終以二

壁而 五此復乘為廣方而 差 下以 窪 乙者 1 12 松 獨大雲 拔 殺 今 立勝而氣 尺度 如其 下 朝 二年月用以限墨星之大陰容掌不啻面出下 高大 該 詔 之可廣 高者外者 四 九微 二次 其二 . سسر 絲中 倚 四 現 寸端 洏 金 黄近 三東 其 低壁 华 瞳 四 在王表以 如月 其池 斗 針 倍 职 者 為 而

得宣令以年譜考之當在元祐八年癸酉現後學之字考第二不可辨西壁外子功二首詩中撰為與此之字考第二不可辨西壁外子功二字史君曰現像字考第二不可辨西壁外子功二字史君曰現像 一步事壁之外方 湖 行日子容記子容蘇丞山州如此星在陰者二上列 祭 相 星在 輝牛 陰者二上、 相 列 頌意其 其

耳古枕及瞻范則在州土郡 志 練 張 後 匣 奉 洋 姓 之 無未補州器之 云凝二巴造黑瓜 距月已大各都作九以方有果 , 詩為光三年

京斗至京天 四月 公容沒歸張仲謀政和間入禁中公容沒歸張仲謀政和間入禁中 在蘇養直集 本府實視日養龍橫沿门有龍形橫視池中世所 都府實視日養龍橫沿门有龍形橫視池中世所 都府實視日養龍橫沿门有龍形橫視池中世所 買供有視端之具石也 血潤堅結禪然天成而不

溪綠石鐫 方寶臣知端州製綠石研送王介甫謂之玉堂新有那經渾沌砚城序 之曰源 也杜李陽端石蟾蜍硯家玉溪生山房李商隱硯御府有聚寶硯玉版太乙船無眼而溫潤皆實硯 · 管匠整之力余嘉其中全於樸而致於用也故名 沌 蠻新

趙也 東聚文磬線 浮のき 奎太而 端 也製及史 松右 以松右半磨周 容 古磬硯端為長 老下 雲 七八寸眼 亚里 雍 明出作弱弱地文楼地明在在插雙地到到其地 一九八寸益現 数墨趙子七八寸益現 极 墨趙子 硯 名 砚 錄 ノ雅 丼 盆 銘 級 虚 養 五 教 本 数 本 数 本 数 本 数 本 数 本 数 本 数 五旦

細 潤青花隱隐 來哉客日第觀之硯端溪之老坑也 星之在天故 隆 銘曰此 可是 壬申 研志 許総五寸衛得縱之半色若馬肝 非 卷下 占 郎 新 综 在 非 聊 結綠也何以沿結綠之名 城王氏物乎余聞此硯外矣何歷下有客匣砚至放之則結綠 雖 如荇藻浮動别 無老成人尚有典型右 有嫩 緑 隷古書漁 班歷歷若 面平無池 而差淡質 殆如

余日遠時不至秦寬敢索記 亭孫某者以此贈 題或轉贈客無不可也文以現成母 聚必有敬王氏之物可贈客客可贈四两手三硯之幾也别余文惡足以 林吉人舍人所書也觀已余復詢如前客日 不記也属草而以 不爱名硯非人情也愛之而欲取之記而繁吾名焉雖以硯易丈固所碩以此贈因公癖好此且監賞之精也 類唐 人的逸可愛盖老人 你客客可贈余余亦不不文惡足以當之夫以 砚 歸諸 伊可幸也 昕

羚羊峽紫石硯東坡先生撫至海南元符三年自 奉云崇寧元年十二月十九日瓊州姜君弼謹識 溪研志卷下 生言論遊不可即情工鐫先生遺像為辦香之耳移蘇州之瓊持以贈余為別歲月遷流追維 であ 右姜唇佐東坡砚識補遺 右沈廷芳隐松齊集 阿公下

15 洞甲東乙西今則反是或謂東美 其所者張志自是煩能識别又皆疑昔 研志 郏 源 ゲバ 肌 石 砚 逐 職皆贋明搖白 延消潤旁有 見夠其 丁丁 百里而 春乔主天章 近 純 未皆一 銀線並住品也因復 於雖 無瑕 石工但 至水 巴盡若 類青花 具 講 而 枯 席 細若 黠 硯 郡

院中 见 子不誣十室未 祇 欲求 異昔 為 自 名故 如 自昔 翹 形 楚 瀙 仑 也 灰 東、 已然 涯 公遇 其器妄去公遠矣 有 為 酉 觸 但當棄 當 事精 偽 易方東 目 兵衛 物色安 琳 詳 瑯 欺 瑕 海 洞靈秀 之 衛墨不爽歲試賞技 女謂楚南多石, 致親謂此地無 然 錄 砚之 夢瑶 用 亦 轨 坐 瑕 所 有美 瑜 鍾藏商 如 無 無 或 瑕 材 者

积上跃 引巷精照程 石之 於年六 各 如 而 人凡欲 所又 聞異篇 所詞春 因 聞古秋 7 而 云以 辨真所公羊旗 反 而辨 又一 者說所現 2 東 妍 醜 者 暇 因 異圖詞記 抵 言 記輯 如 沂 錄 西砚洞志 觀也殊 聞 自 盖 異詞 观 ---斯

三天子家翰之 其不肯聊以開工之始 度 道 所 略 有 即 必 者 後 不 经 不 经 日 二 工 经 以教吾 硯之為物薄 益 經意之 孍 焉 竣 編 者 Z 之 為 作 則 處 可 既 用 愈 知也 臨 辨 目擊 可重馬矧 民晰 古率推

思矣同學愚弟相堂吕伊及之於博縣於考据者许浅讀日本有位馬不然冰處固良二千 いつとなる 者并我讀是編書去亦可深是嚴固良二千石也出史經生途 鄚 跋好 節不 挈 於 右 之其復眷乾端 求複可旋隆溪 且仍见里丁研 滑為而遂丑志 以三所載之三 付数以越 王既者世循辑永供因原例如 档 版 熙同